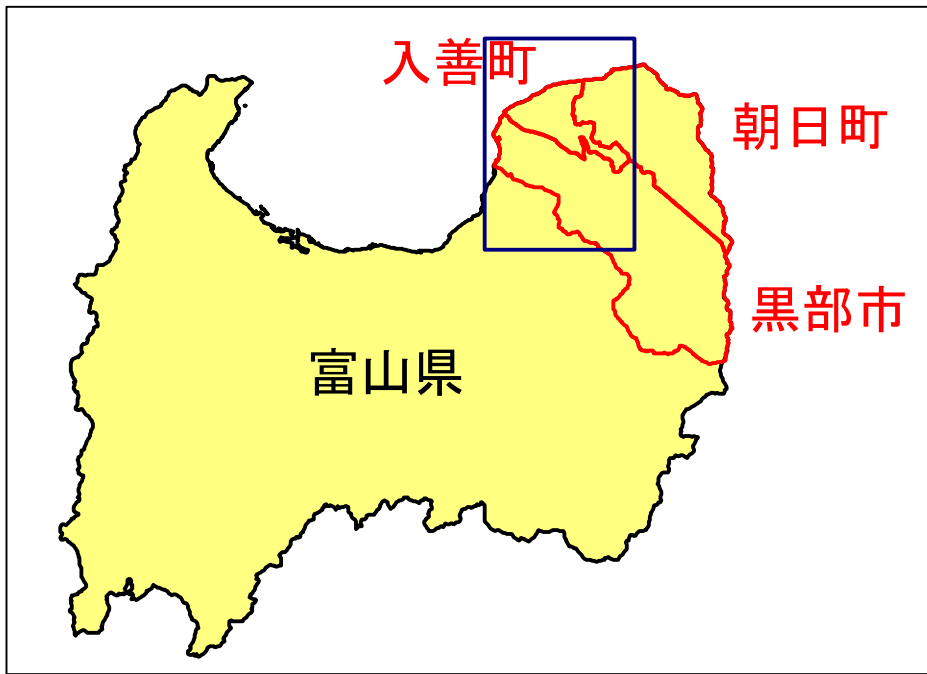


黒部川水系黒部川 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ【現況河道】

浸水深3m（1階居室浸水相当）以上の
浸水が想定される範囲を表示



凡 例

■ 高頻度(1／10)

■ 中高頻度(1／30)

■ 中頻度(1／50)

■ 中低頻度(1／100)

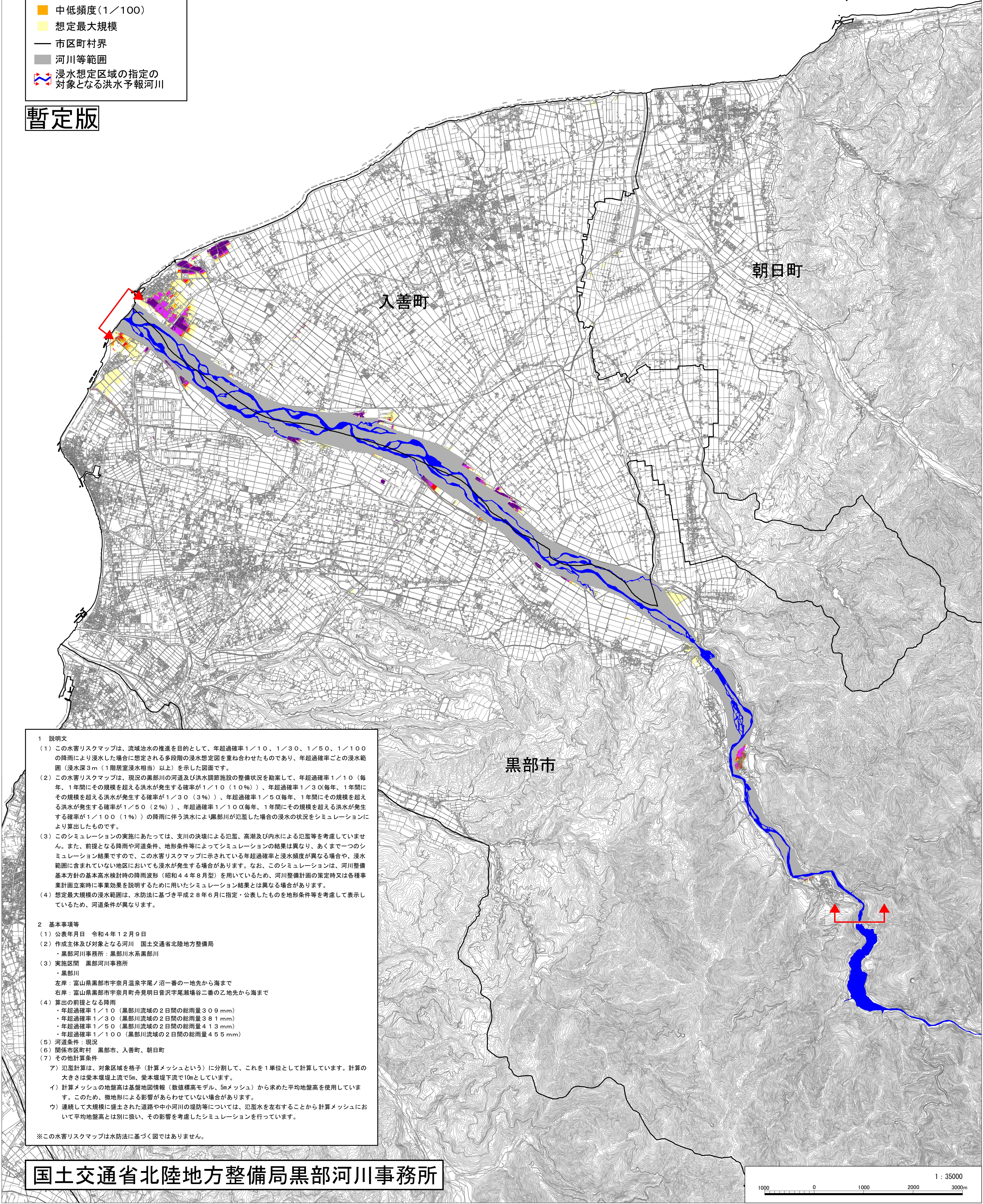
■ 想定最大規模

— 市区町村界

■ 河川等範囲

↔ 浸水想定区域の指定の
対象となる洪水予報河川

暫定版



- 1 説明文
- (1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1／10、1／30、1／50、1／100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水深3m（1階居室浸水相当）以上）を示した図面です。

(2) この水害リスクマップは、現況の黒部川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1／10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／10（10％））、年超過確率1／30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／30（3％））、年超過確率1／50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／50（2％））、年超過確率1／100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／100（1％））の降雨に伴う洪水により黒部川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

(3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和44年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

(4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年6月に指定・公表したものを地形条件等を考慮して表示しているため、河道条件が異なります。
- 2 基本事項等
- (1) 公表年月日 令和4年12月9日

(2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北陸地方整備局
・黒部河川事務所：黒部川水系黒部川

(3) 実施区間 黒部河川事務所
・黒部川
左岸：富山県黒部市宇奈月温泉字尾ノ沼一帯の地先から海まで
右岸：富山県黒部市宇奈月町舟見明日音沢字尾瀬場谷二番の乙地先から海まで

(4) 算出の前提となる降雨
・年超過確率1／10（黒部川流域の2日間の総雨量309mm）
・年超過確率1／30（黒部川流域の2日間の総雨量381mm）
・年超過確率1／50（黒部川流域の2日間の総雨量413mm）
・年超過確率1／100（黒部川流域の2日間の総雨量455mm）

(5) 河道条件：現況

(6) 関係市区町村 黒部市、入善町、朝日町

(7) その他計算条件
ア 氾濫計算は、対象区域を格子（計算メッシュという）に分割して、これを1単位として計算しています。計算の大きさは愛本堰堤上流で5m、愛本堰堤下流で10mとしています。
イ 計算メッシュの地盤高は基盤地図情報（数値標高モデル、5mメッシュ）から求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響があらわされていない場合があります。
ウ 連続して大規模に盛土された道路や中小河川の堤防等については、氾濫水を左右することから計算メッシュにおいて平均地盤高とは別に扱い、その影響を考慮したシミュレーションを行っています。
- ※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

国土交通省北陸地方整備局黒部河川事務所